令和　　4　　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3591200047		
法人名	株式会社ひまわりあくと		
事業所名	グループホームつくし		
所在地	柳井市南町六丁目６－６		
自己評価作成日	令和5年2月18日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島県広島市南区皆実町１丁目６－２９
訪問調査日	令和5年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

理念「つくしんぼ大家族　こころやすらぐ笑顔の家」を目指し、我が家で暮らしているように、やすらぐことのできるように、活き活きと活動し笑顔がたくさん見られる家になるよう。そして入居者、家族、職員、地域の方、入居者につながるすべての方、みんなを含めた大家族で、ともに支えあって暮らしていけるようにつながりを大切に、一人一人の思いを大切に支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

職員は理念に沿い日々の支援の場面で、利用者に寄り添い共に支え合える暮らしを大切にしながらサービスに取り組んでいる。また管理者とリーダーは連携がとられており信頼関係を構築している。市町との繋がりも法人と事業所で役割分担があり、情報共有している。医療に関しては、自由にかかりつけ医を選ぶことが出来る。日々の健康管理では、職員は看護師と相談しながら、例えば便秘の解消など、利用者一人ひとりの状態を把握し、無理をしない安心・安全な支援を行っている。近年、風水害の発生が多く、そのための災害対策では、事業所の位置、危険性を把握し、マニュアルの作成や避難訓練、緊急対応など有事に備え、備蓄も確保している。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：24. 25. 26）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：19. 39）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38. 39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：50）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：31. 32）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：29）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：10. 11. 20）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2. 21）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：5）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
67	職員は、活き活きと働けている（参考項目：12. 13）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目（　西棟　）	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	内部研修の中で、理念についての一人ひとりの思いや実践していることを抽出し、共有して実践につなげられるよう努めている。	事業所の理念は、地域密着型サービスの意義を踏まえ、利用者が地域にとけ込んだ暮らしが出来るようつくられている。職員は年1回定期的に、理念に対しての意見を提出し、時には管理者から助言をもらいながら、日々の業務が理念に繋がるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進委員の自治会長、副会長、民生委員、福祉委員と連絡を取り合っている。地域の河川清掃にも参加している。回覧板を利用者と一緒に持って行くようにしている。	町内の回覧版で地域の情報は得ており、町内会長は運営推進会議等で関わっている。現況では地域行事には参加出来ないが、近隣の幼稚園児にプレゼントを通して、間接的ではあるが交流している。職員はこれからの展望として、感染が落ち着けば近くに買物する等、地域との繋がりに取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今のところできていない。運営推進会議にて地域の介護事業所として地域に役立つことがないか投げかけている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	内部研修で自己評価・外部評価を実践する意義を話し合っている。評価を受ければこそ問題点を明確にでき、前向きに改善できるよう努力をしている。	自己評価の作成にあたり、職員は話し合い日々の支援状況の評価を行い、管理者及びリーダーが意見を集約し、サービス向上の目的を理解しながら取り組んでいる。事業所は今後のステップアップを期待する点も把握し改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の中で、運営推進会議が文書によるものが主となっているが、返信用封筒により意見を頂いている。意見をサービス向上に活かせるようにしている。	主に書面会議が中心で定期的に行い、家族を始め関係者が参加し意見交換を行っている。取り組み内容は利用者の健康面等の報告をはじめ、参加者からのアドバイスで「つくし通信」に理念を掲載するようにした事例もある。事業所はさまざまな意見交換を行いながらサービスの向上に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目（　西棟　）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者が運営推進会議（文章によるものを含め）に参加している。その他にも電話や訪問等で相談を行っている。	市町の担当者との連絡は本社の施設長が行い、必要な情報は本社から管理者に伝えられている。また例えば法改正等相談があれば市町の窓口に出掛け、管理者は協力関係を築いており日頃から連携している。また研修の案内など必要な情報を得ている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	2ヶ月に1回身体拘束対策委員会議（文書によるものを含め）を開催している。内部研修で全職員が身体拘束について正しい理解ができるようにし、サービスの向上に努めている。	身体拘束とその影響は、定期的に開催している運営推進会議後の身体拘束対策委員会に参加し、その後事業所で伝達を行い職員は理解している。支援の在り方も不適切ケアをはじめ、スピーチロックなどグレーゾーンにも気を配り、夜間対応はセンサーを活用しながら安心・安全な支援に取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修にて定期的に虐待について職員全員で学んでいる。特にスピーチロックについて話し合っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を受けている入居者がおり、関係者と話し合いながら適切な支援ができている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は十分な時間を取りしっかり説明を行っており、家族等の質問にも応じている。		

自己	外部	項　目（　西棟　）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に投書箱を置き、運営推進委員会（文書によるもの）でも家族の苦情や要望を聞いている。又苦情や相談を気軽に言っていただける関係作りを心がけている。	家族からの要望で多いのは自由な面会である。しかし現状ではガラス越しの面会で、短時間で規制せざるを得ない。職員は利用者の暮らしぶりを、家族に伝えるため、写真を「つくし通信」に掲載したり、対応可能な家族にはビデオ通話での対応を行い、安心に繋がるよう支援している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞く機会をもうけている。	職員からの意見は会議の場のみで無く、様々な場面で行っている。また職員からの要望が有れば、話し合いを重ね必要に応じて、業務改善や環境の整備等に反映させるよう取り組んでいる。事業所は職員がやりがいや目的を持ち、スキル向上を目指せるよう機会を設け反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に対する目配りをし、努力している姿には言葉として賞賛を伝えている。何事も現場職員の発案、企画、実行を尊重し、やりがいを持てるようにしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修・管理者研修に参加した。地域の介護事業者連絡協議会の研修に参加した。他はリモートによる研修にて職員の資質向上に努めている。	施設長は定期的に事業所を訪問し、職員と直接意見交換する機会がある。管理者は全職員に平等に接することで、職員が意見を出しやすくなるよう工夫している。研修や資格取得なども必要に応じて反映させている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柳井市介護保険事業所連絡協議会、ケアマネ連絡協議会に入会している。コロナ禍において十分な交流ができていない。		

自己	外部	項　目（　西棟　）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学に来ていただき、本人とお話しができるようにして、不安が早く解消できて、本人の思いや、要望が聞けるように心がけている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の相談・説明は十分に時間をかけ行っており、家族等の不安なこと、要望等に耳を傾けるようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援をよく把握し、情報提供を行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの持っている力を十分に発揮できるよう、一緒に色々なことを行うように支援している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	理念の「つくしんぼ大家族・・・」の「大家族」には、入居者全員、職員全員のみならず、入居者につながる家族も含めており、家族との絆を大切にするよう支援している。		

自己	外部	項　目（　西棟　）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時のかかりつけ医に引き続き通院することはできている。近所の方が毎月面会に来られたり、飼い犬を連れて来てもらっての触れ合いがある。	馴染みの場所に出掛けられないが、事業所は出来る限り馴染みの人との繋がりを大切にしている。例えば、月に1回、理美容師が訪れたり、また家族とのつながりは手紙や電話等でサポートし、職員は途切れない関係の継続を支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る席等に配慮しながら、できるだけホールでみんなと一緒に過ごし、レクリエーションや共同で作業したりできるように支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍の為、入院先、入所先を訪問することはできない。家族と連絡をとりあったりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの要望を聞き、ケアプランを作成している。日々の生活の中から意見・要望を聞けるように努めている。	日々の暮らしの中で、職員は利用者の思いを引き出せるよう努めている。外出が自由に出来ない今、積極的にコミュニケーションを図り、外出等の希望が有れば、近所にある公園の花壇の花を見に行っている。また切り花の差し入れが合った時には、みんなで花を活けるなど楽しく過ごす事も有る。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の面談時、時間をかけ聞いている。又日々の生活の中の言動や行動と、ご家族からの聞き取り等で把握に努めている。		

自己	外部	項　目（　西棟　）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中の言動・行動から状態の把握に努めるとともに、記録等も参考にしながら状態の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望を聞き、職員全員で情報交換、検討しそれぞれの意見を反映し作成している。	モニタリングは3ケ月に1回適時に行うことで、的確に判断が行い易くなり、職員の意識も向上している。又、状態の変化がある場合は、職員全員が情報を共有し評価、アイデアを出し合いながら見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録と、業務日誌に日々の様子やケアの実践・結果・気づきや工夫を記入し、情報を共有している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズにこたえられるよう、個別に買い物、野菜作り等行えるように取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、隣の保育園との直接の交流は減っているが、窓越しに子供の遊ぶ姿を見たり、花の苗や、こどもの日に贈り物をしたりしている。又、自分が書いた手紙は郵便局のポストに投函することはできている。		

自己	外部	項　目（　西棟　）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿い、主治医と連携を図りながら適切な医療が受けられるように支援している。	利用開始時に利用者、家族へ協力医療機関について説明を行い、利用後は希望した医師の診療を受けている。訪問診療は月1回で、家族の希望が有れば結果を電話で知らせている。歯科診療は必要時に職員と行っている。また普段の利用者の様子などの情報提供をかかりつけ医に行い、有事にも適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師連絡帳の活用や、直接の相談にて、入居者の状態を伝え適切に受診や看護を受けられるよう支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供書等で情報を提供している。主治医・本人・家族と連携を取りながら、可能な限り退院時の受け入れができるよう努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常的に医療行為が必要となった場合には、ホームでの対応が困難なため、医療機関に入院することが多い。	利用開始時に法人の方針で看取りは行わない事を、家族に説明し了解を得ている。重度化した場合は家族の希望を確認し、かかりつけ医の指示のもと、他の医療及び施設等を紹介している。職員は予防に重点を置き、事業所の方針に従った支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故対応のマニュアルがあり、事故報告書を提出し、今後の対応をみんなで検討し、再発防止に取り組んでいる。急変や事故対応の訓練も、少人数で定期的に行っている。	急な発熱、誤嚥や窒息、転倒などに加え、新型コロナウイルス感染対応など、職員は常に話し合いを行っている。また突発的な事故や体調の変化が起きた時は、看護師から対応の方法を実践を踏まえながら訓練し、職員間で共有し緊急対応力を身につけている。	

自己	外部	項　目（　西棟　）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行っている。今年度はコロナ禍の為地域住民を交えての訓練は行っていない。災害時の避難訓練も行った。	年2回の避難訓練は夜間訓練も含め行っている。コロナ禍の影響もあり近隣の協力は困難である。また風水害が多発しやすい地域で、職員はハザードマップを活用しながら、事業所の位置、危険性を把握し、常に有事での避難経路を確認しながら取り組んでいる。備蓄はローリングストックをしている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩だということを念頭におき、自尊心に配慮した言葉かけや対応ができるように心がけている。	日頃より利用者一人ひとりの、気持ちを考えその都度対応出来るようにしている。また生活歴からヒントを得て、改善し支援に取り組んでいる。特に言葉かけは重視し、無理強いしないで自然な生活を大切に対応している。話し合いなどで日頃の記録の書き方にも気を配っている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢のある声掛けを心がけ、自己決定ができる場面つくりを実施している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いや希望を尊重し、入居者一人一人のペースに合わせた過ごし方を心がけている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝お化粧を日課にしている方が数名いる。できるだけ本人の希望する身だしなみを続けられるように支援している。		

自己	外部	項　目（　西棟　）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍の為、職員が同席での食事は控えている。食事の準備、片付けはできるだけ一緒に行うようにしている。誕生会には職員と一緒に手作りケーキを作っている。	日常の食事は配食を利用している。誕生日には職員と利用者が手作りしたケーキでお祝いすることもある。イス・テーブルの高さや、利用者同士が楽しく食事が出来るよう食事環境にも気配りしている。外食が出来ない今、行事食など要望を聞き、職員は工夫しながら支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	苦手な食材がある時は、違うものを提供したり、本人の体調や状態に合わせて食事の時間にも配慮している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。本人の能力に応じて、就寝前や起床時も口腔ケアの支援を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の排泄リズムを掴み、尿意の訴えがない方でも、排泄のパターンを把握し、トイレ誘導している。入所時はリハビリパンツを使用していたが、布パンツで生活できるようになった方がいる。	車イス対応の広いトイレを含めフロアに4か所ある。夜間はポータブルトイレの使用者はいるが、見守りやセンサーマットを活用した支援をしている。更に職員は機能低下につながらないよう、食事や運動、マッサージ等行いながら、排泄が困難にならないよう支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をチェックし、水分摂取や食物繊維の多いものの提供、運動をこころがけ、主治医と連携を図っている。		

自己	外部	項　目（　西棟　）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望に合わせて午前中対応している。	入浴は2日に1回午前中で、利用者の習慣や状態に合わせて行い、利用者の中には楽しみにしている人もいる。入浴後はローションや皮膚の状態に合わせた軟膏を使い、保湿にも心掛けている。その他の入浴環境も冬場の室温管理に気配りを行いながら入浴を楽しめるよう支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決まっておらず、一人ひとりの生活習慣に合わせて入眠を促している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が把握できるよう、それぞれの薬の説明もファイリングしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能を活かし、それぞれの生活歴を把握し、趣味や役割が行えるように支援している。	利用者は家族や近隣住民に、差し入れしてもらった切り花を活けたり、家事の好きな人には、職員と共に家事作業をしている。中にはテレビを見ながら楽しくおしゃべりする利用者もおり、それぞれが自由に過ごせる空間がある。また皆で行う四季折々の行事も楽しんでいる。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を楽しめる外出を全員で行ったり、ホーム周辺の散歩をしたり、ドライブに行くことで気分転換を図れている。本人の喜ばれる場所を職員が考え外出できている。	現在は外出は出来ないが、職員は外の空気を感じて貰うため、玄関先のベランダのベンチで外気浴を行っている。天気の良い日は近くの公園の鯉のエサやりに、パンくずを持参し散歩をしている。今後はタイミングを図ってドライブなど、外出の機会をつくるよう取り組む予定である。	

自己	外部	項　目（　西棟　）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	受診時の支払いは、できるだけ本人が支払うように対応している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人とのつながりが保てるよう、電話、手紙　テレビ電話のやり取りを大切に支援している。家族持参のひ孫のDVDをいつでも見られるように支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に快適な室温で暮らせるよう温度と湿度に気を配っている。玄関や居室、トイレ等にトールペイントを飾り、温かみのある空間を作っている。又入居者と共同作業で季節の飾りつけを行っている。	利用者の多くが時間を過ごすリビングは、程よい広さがありアットホームな雰囲気となるよう配慮している。壁にはみんなで作った四季の折り紙の作品がある。フロアや廊下は自由に行き来し、季節には庭のプランターで野菜の栽培をしている。職員は利用者が思い想いに暮らせるよう支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には、ソファー、食卓、テレビがあり、リラックスできるように工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具を持ち込むことができ、畳、障子等により、落ち着ける空間が確保できている。	室内は畳が敷いてあり、ベッド、クローゼット、洗面台も設置してある。利用者の中には壁に写真を飾り、小さな机や趣味のラジカセやテープも持参している。入口ドアには名札の他に、手作りの作品を飾ることもある。職員は利用者ひとり一人が、居心地よく暮らせるよう支援している。	

自己	外部	項　目（　西棟　）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計になっており、廊下・居室入り口などに手すりを設置している。歩行器、シルバーカーがすべての場所で使用でき、安全で自立した生活ができるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目（　東棟　）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	内部研修の中で、一人ひとりの思いを抽出し、共有して実践につなげられるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進委員の自治会長、副会長、民生委員、福祉委員と連絡を取り合っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今のところできていない。運営推進会議にて地域の介護事業所として地域に役立つことがないか投げかけている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	内部研修で自己評価・外部評価を実践する意義を話し合っている。評価を受ければこそ問題点を明確にでき、前向きに改善できる努力をしている。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の中で、運営推進会議が文書によるものが主となっているが、返信用封筒により意見を頂いている。意見をサービス向上に活かせるようにしている。		

自己	外部	項　目（　東棟　）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者が運営推進会議（文章によるものを含め）に参加している。その他にも電話や訪問等で相談を行っている。		
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	2ヶ月に1回身体拘束対策委員会議（文書によるものを含め）を開催している。内部研修で全職員が身体拘束について正しい理解ができるようにし、サービスの向上に努めている。		
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修にて定期的に虐待について職員全員で学んでいる。特にスピーチロックについて話し合っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を受けている入居者がおり、関係者と話し合いながら適切な支援ができている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際は十分な時間を取りしっかり説明を行っており、家族等の質問にも応じている。		

自己	外部	項　目（　東棟　）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に投書箱を置き、運営推進委員会（文書によるもの）でも家族の苦情や要望をきいている。又苦情や相談を気軽に言っていただける関係作りを心がけている。		
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞く機会をもうけている。		
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に対する目配りをし、努力している姿には言葉として賞賛を伝えている。何事も現場職員の発案、企画、実行を尊重し、やりがいを持てるようにしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により外部の研修は少ないが、リモートによる研修にて職員の資質向上に努めている。		
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柳井市介護保険事業所連絡協議会、ケアマネ連絡協議会に入会している。コロナ禍において十分な交流ができていない。		

自己	外部	項　目（　東棟　）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学に来ていただき、本人とお話しができるようにして、不安が早く解消できて、本人の思いや、要望が聞けるように心がけている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の相談・説明は十分に時間をかけ行っており、家族等の不安なこと、要望等に耳を傾けるようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援をよく把握し、情報提供を行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの持っている力を十分に発揮できるよう、一緒に色々なことを行うように支援している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	理念の「つくしんぼ大家族・・・」の「大家族」には、入居者全員、職員全員のみならず、入居者につながる家族も含めており、家族との絆を大切にするよう支援している。		

自己	外部	項　目（　東棟　）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時の医院に通うことはできている。		
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座る席等に配慮しながら、できるだけホールでみんなと一緒に過ごし、レクリエーションや共同で作業したりできるように支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍の為、入院先、入所先を訪問することはできない。家族と連絡をとりあったりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの要望を聞き、ケアプランを作成している。日々の生活の中から意見・要望を聞けるように努めている。		
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の面談時、時間をかけ聞いている。又日々の生活の中の言動や行動と、ご家族からの聞き取り等で把握に努めている。		

自己	外部	項　目（　東棟　）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中の言動・行動から状態の把握に努めるとともに、記録等も参考にしながら状態の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望を聞き、職員全員で情報交換、検討しそれぞれの意見を反映し作成している。		
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録と、業務日誌に日々の様子やケアの実践・結果・気づきや工夫を記入し、情報を共有している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズにこたえられるよう、花・野菜作り等行えるように取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、隣の保育園との直接の交流は減っているが、窓越しに子供の遊ぶ姿を見たり贈り物をしたりしている。		

自己	外部	項　目（　東棟　）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿い、主治医と連携を図りながら適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師連絡帳の活用や、直接の相談にて、入居者の状態を伝え適切に受診や看護を受けられるよう支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供書等で情報を提供している。主治医・本人・家族と連携を取りながら、可能な限り退院時の受け入れができるよう努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日常的に医療行為が必要となった場合には、ホームでの対応が困難なため、医療機関に入院することが多い。		
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故対応のマニュアルがあり、事故報告書を提出し、今後の対応をみんなで検討し、再発防止に取り組んでいる。急変や事故対応の訓練も、少人数で定期的に行っている。		

自己	外部	項　目（　東棟　）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行っている。今年度はコロナ禍の為地域住民を交えての訓練は行っていない。災害時の避難訓練も行った。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩だということを念頭におき、自尊心に配慮した言葉かけや対応ができるように心がけている。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢のある声掛けを心がけ、自己決定ができる場面づくりを実施している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いや希望を尊重し、入居者一人ひとりのペースに合わせた過ごし方を心がけている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝お化粧を日課にしている方がいる。本人の能力にあった身だしなみを続けられるように支援している。		

自己	外部	項　目（　東棟　）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍の為、職員が同席での食事は控えている。誕生会には職員と一緒に手作りケーキを作ったり、片付けを行っている。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	苦手な食材がある時は、違うものを提供したり、本人の体調や状態に合わせて食事の時間にも配慮している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。本人の能力に応じて、就寝前や起床時も口腔ケアの支援を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の排泄リズムを掴み、尿意の訴えがない方でも、排泄のパターンを把握し、トイレ誘導している。		
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況をチェックし、水分摂取や食物繊維の多いものの提供、運動をこころがけ、主治医と連携を図っている。		

自己	外部	項　目（　東棟　）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望に合わせて午前中対応している。		
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決まっておらず、一人ひとりの生活習慣に合わせて入眠を促している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が把握できるよう、それぞれの薬の説明もファイリングしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能を活かし、それぞれの生活歴を把握し、趣味や役割が行えるように支援している。		
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を楽しめる外出を全員で行ったり、ホーム周辺の散歩をしたり、ドライブに行くことで気分転換を図れている。本人の喜ばれる場所を職員が考え外出できている。		

自己	外部	項　目（　東棟　）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	受診時の支払いを、できるだけ本人が支払うように対応している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人とのつながりが保てるよう、電話、 テレビ電話のやり取りを大切に支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に快適な室温で暮らせるよう温度と湿度に気を配っている。玄関や居室、トイレ等にトールペイントを飾り、温かみのある空間を作っている。又入居者と共同作業で季節の飾りつけを行っている。		
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には、ソファー、食卓、テレビがあり、リラックスできるように工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具を持ち込むことができ、畳、障子等により、落ち着ける空間が確保できている。		

自己	外部	項　目（　東棟　）	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計になっており、廊下・居室入り口などに手すりを設置している。歩行器、シルバーカーがすべての場所で使用でき、安全で自立した生活ができるようにしている。		

（様式２）

２　目標達成計画

事業所名	グループホームつくし
作成日	令和　５年　４月　３０日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点，課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	11	家族から自由な面会を希望されることが多いが、現在玄関ガラス越しでの面会や電話、写真で現在の様子を見て頂くことしかできていない。	コロナ等の感染対策を踏まえながら、本人、家族が満足できるように支援する。	今は一部の方しか使用できていない、ビデオ通話をなるべく多くの家族が使用できるようにしたい。 状況を見ながら、面会等の制限についてその都度検討していく。	12か月
2	14	コロナ禍の為、ミーティング等で職員が集まり、行えた内部研修が少ない。 話し合いができるように職員が集まれる機会が必要。	コロナの感染状況を見ながら、職員が集まれる場を作り、内部研修を行う。	コロナの感染状況を把握。パーテーションなどの感染防止対策を行い、職員が集まり内部研修が行なう事ができるかを検討していく。	12か月
3					
4					
5					

注１）項目番号欄には，自己評価項目の番号を記入すること。
注２）項目数が足りない場合は，行を追加すること。